第31回雲南懇話会

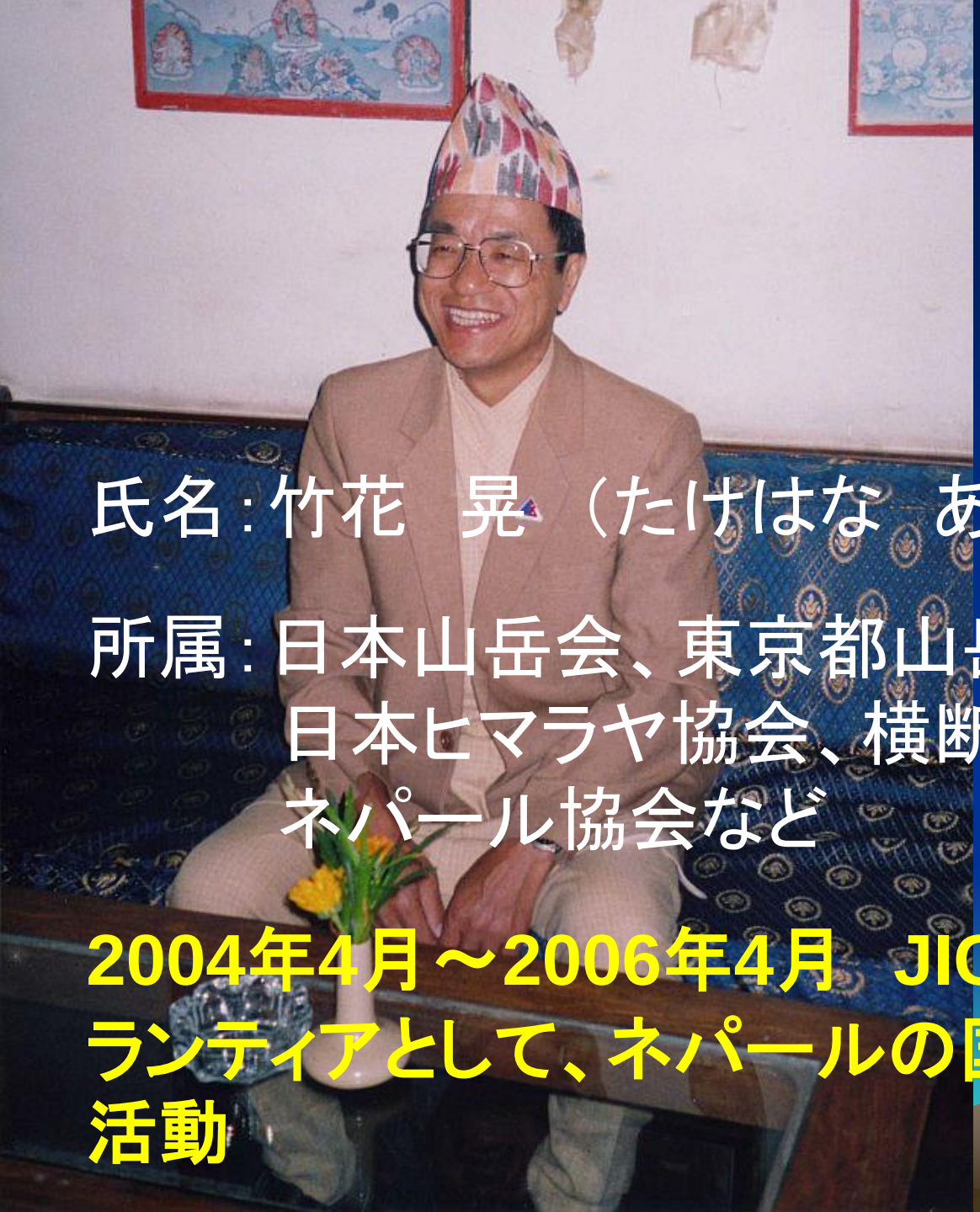
ネパール ポカラの国際山岳博物館と私のヒマラヤ登山

- JICAシニアボランティア活動とその後のネパール三昧

於 JICA研究所

2014年12月20日

日本山岳会海外委員、東京都山岳連盟海外委員
元JICAシニア海外ボランティア
竹花　晃



自己紹介

氏名：竹花　晃（たけはな　あきら）

所属：日本山岳会、東京都山岳連盟
日本ヒマラヤ協会、横断山脈研究会、日本ネパール協会など

2004年4月～2006年4月　JICAのシニア海外ボランティアとして、ネパールの国際山岳博物館で活動

ポカラとヒマラヤの眺め

（フォクシンより）



ポカラの国際山岳博物館

（International Mountain Museum；IMM)



国際山岳博物館(IMM)の歴史

- ネパール山岳協会(Nepal Mountaineering Association; NMA)が設立

- 1985年4月　　ポカラの土地購入
- 1995年11月　　地鎮祭
- 1996年 5月　　建設開始
- 2002年5月29日　　ソフトオープニング
- 2004年2月5日　　グランドオープニング

国際山岳博物館の概要

- 敷地面積:　51,000㎡
- 建築面積:　　3,110㎡
- 延べ床面積: 4,250㎡
- 展示:山岳民族、自然史、登山の三部門と外部団体（IUCN,ICIMOD,WWF等）
- 設備:チベット仏教仏間、図書室、AVルーム、会議室
- 付属施設:レストラン、土産物店、等

日本からのIMM建設支援金

日本山岳会	13,171,241 円
HAT－J	1,256,200 円
日山協、労山、日ネ協会等	10,614,444 円
利息等を含む収入総額	25,048,316 円
管理費	△535,197 円
合計送金額（関係6団体）	**24,513,119 円**

その他団体、個人の寄付推定　5,000,000円以上

日本の推定合計支援額　約30,000,000 円　円/ドル為替レート120円とすると、約USD 250,000

※NMAからの日本への初めての支援依頼は1983年5月にあった

観光省及び海外からのIMM建設支援金

ネパール観光省	USD 41,071
中国登山協会	USD 5,000
インド登山協会	USD 5,080
韓国登山協会	USD 10,000
アジア山岳連盟	USD 1,000
その他寄付	USD 48,920
諸外国計	USD 70,000

※日本からの支援金が圧倒的に多かった

主な寄贈者（2004年まで）；敬称略

- 今西壽雄（奥様）：マナスル
- 田部井淳子：エベレスト女性隊
- 野口健：エベレスト清掃隊
- 高山龍三：河口慧海関連書籍
- 大森弘一郎：山岳写真
- 秋田県矢島町：民俗品
- カトマンズクラブハウス：書籍
- 杉山脩：版画、写真
- 立山エベレスト友好協会
- 王立地理学会：エベレスト遠征パネル写真
- フランス：アンナプルナ
- オーストリア：山地民俗パネル
- ジョージ・バンド
- トニー・ハーゲンの娘さん
- スロベニア

※漏れた方はご容赦願います。多数の個人・団体よりご支援頂いた。

グランドオープニングの様子（2004年2月）

Website:「ネパールの空の下けぇがるね？日記」より



タパ首相、観光相も列席





JICAによる支援

・JICAより4代に渡りシニア海外ボランティアを派遣。オープニング準備から、展示や運営の充実に努めた。

初代：AD氏	2002年4月～2004年4月
2代目：竹花	2004年4月～2006年4月
3代目：F氏	2008年6月～2010年6月
4代目：AK氏	2010年6月～2012年6月
短期：AK氏	2013年8月～2014年5月

・2004年のグランド・オープニングの前に、IMMのマネジャーのナビン・ギミレをJICAの支援で派遣。大町山岳博物館や立山カルデラ砂防博物館などで研修を受けた。





（2005年当時の展示）





大森弘一郎氏の空撮写真



IMMの女性スタッフ



ヒマラヤの花コーナー

IMMでの活動概要

- 任務：国際山岳博物館の運営

  IMMはNMAの事業の一部門。NMAとの係わり大。

- 任期：2004年4月6日～2006年4月5日

- 内容：事業計画の立案と実施、マーケティング

  （特に認知度アップのための広告、パブリシティ）

  展示品の収集・展示ケース設計・作成・取付、

  人材育成（マネジャー、スタッフ）、図書の管理と

  充実、売店の活性化、スタッフの規律、

  環境美化運動、・・・・・、etc.

1．博物館経営及び全般についての提案と指導・実施

（1）博物館運営状況観察の後、ネパール山岳協会（NMA）への改善計画の提案（2004年7月）

評価されてビジネスプランの作成を依頼される

当時の報告資料の一部

（2）経営計画の作成とNMAへの提案

入館者数予測から収支計画（損益計算書）まで

・2004/2005 会計年度経営計画（Shrawan-Asadh)

2004年9月　承認を求めOK

・2005/2006 会計年度経営計画（Shrawan-Asadh)

2005年5月

4 P's in IMM at Present

Assortment;Not enough collection

Quality;Exhibition & Description, unsatisfactory

Fine building and outside scenery



Expensive a little bit in Pokhara, especially for SAARC

Few Awareness, Few **Advertising** and **Publicity**

Pokhara;Good location for sightseeing & Trekking

Far from Kathmandu or Khumbu

No way to Change

How to Increase Revenue?

Informative & Attractive Museum

Exhibition, Special Event and Information of the Mountain

Increase Awareness

Publicity; Internet

Poster, Brochure

Guidebook,Magazine

Through Good Management & Staff

People want to visit the IMM.

Increase entrance income, gift sales & restaurant sales.

2. 山岳博物館の知名度向上

（1）ガイドブックの掲載依頼

地球の歩き方：修正

Lonely Planet (米、英、仏）

Footprint

（2）ポスター、ブローシャーの作成と配布

トレッキング・旅行代理店、ホテル等

（3）ビルボード

ポカラ市内　6ヶ所

こんなことが1年7ヶ月かかった

（4）ホームページの改良、作成の現地化（博物館で）

（5）日系のトレッキング・旅行代理店へ訪問・挨拶

東京（3ヶ所）、カトマンズ（5ヶ所）

３　新規展示品制作と既存品の改良

（1）Toni Hagen コーナー

新規寄贈品を加えた大改良：Toni Hagen の娘さんを迎え、
オープニング式

（2）河口慧海、ACAPコーナーのレイアウト変更と改良

（3）日本の北国の農村コーナー新設

秋田県矢島町の寄贈品

（4）ヒマラヤの高山植物コーナー新設

特に日本人から大好評

（日本人は外国人の約4割、全収入の約4分の1を占める）

CDまたは本、絵はがきの要望も

Toni Hagen コーナー





河口慧海コーナー

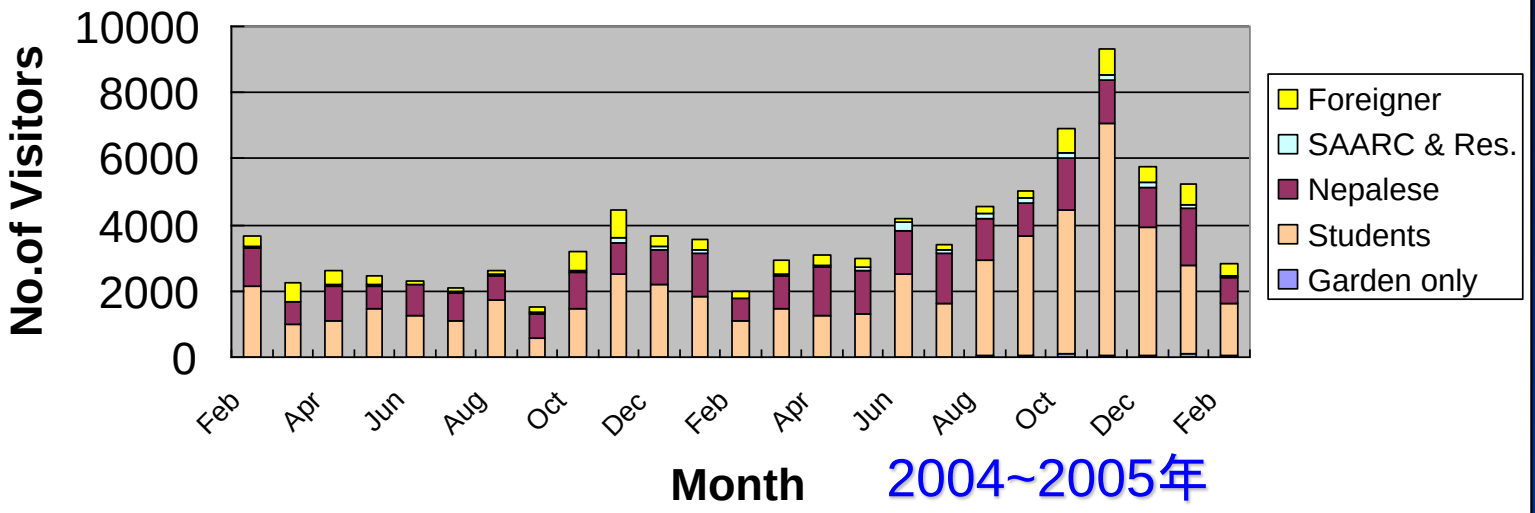

8000m峰初登頂コーナー
Mt. Everest
Nanga Parbat
K2
Cho Oyu

入館者数・入館者収入実績



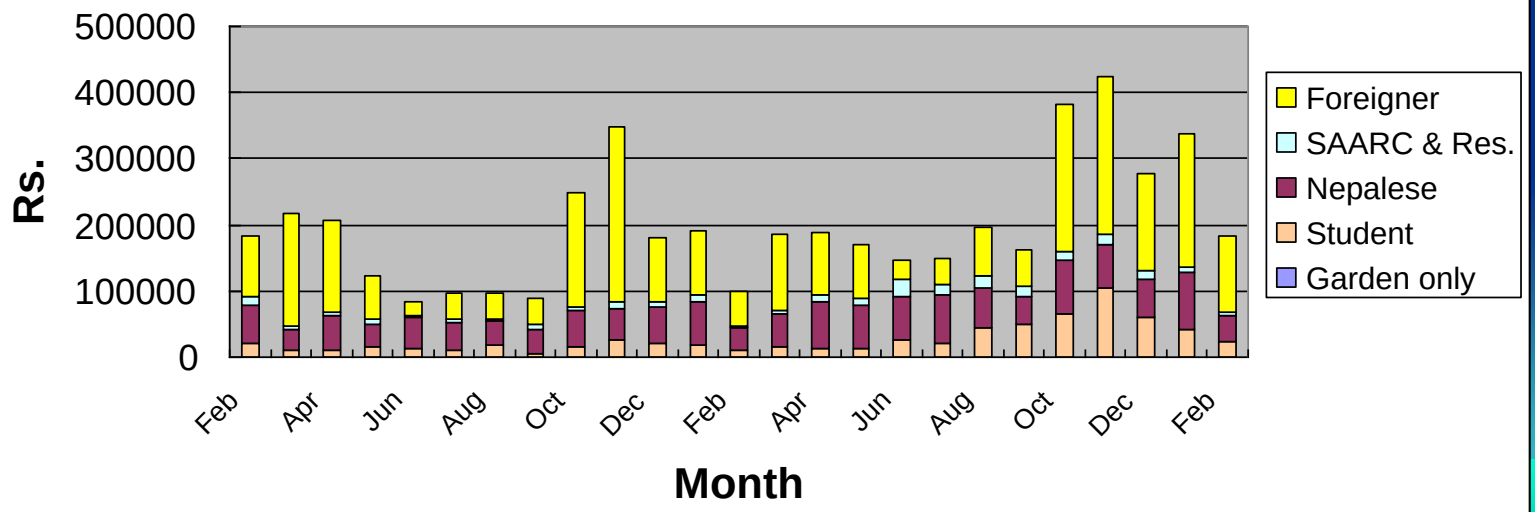
2014年12月国際山岳博物館で行われた、国際山岳デーの式典
当時のデウバ首相も参列

IMM Monthly Trend / No.of Visitors



2004~2005年

IMM Monthly Trend / Entrance Fee

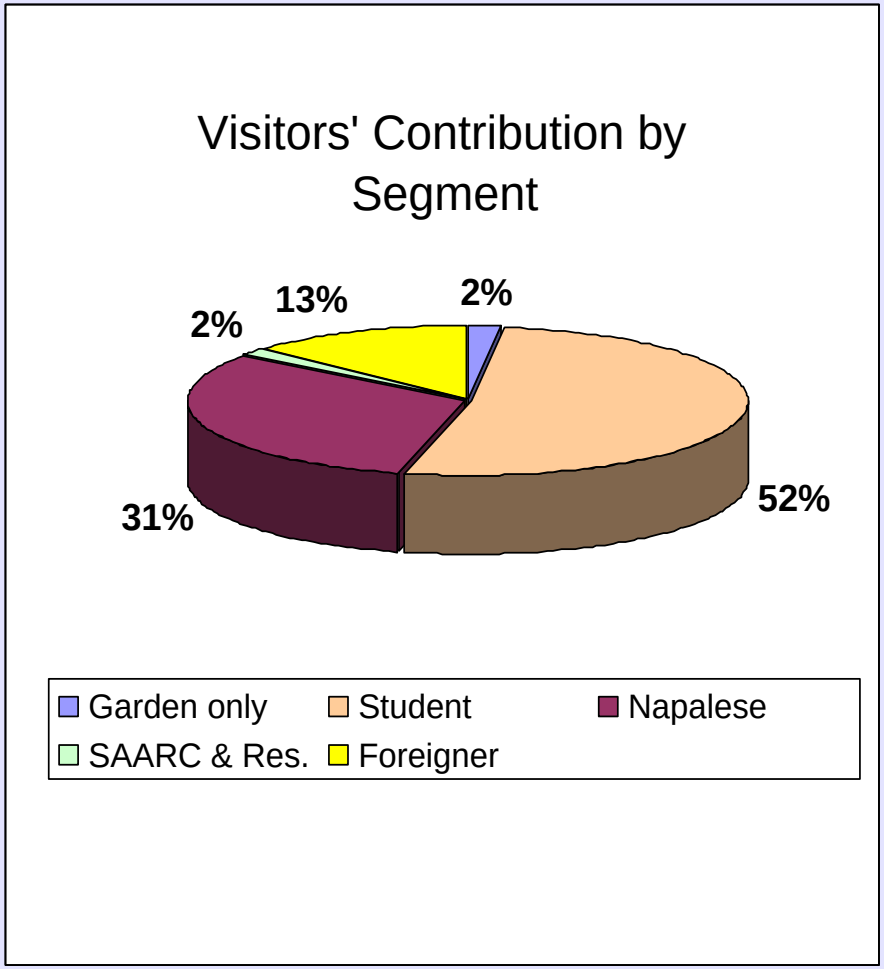


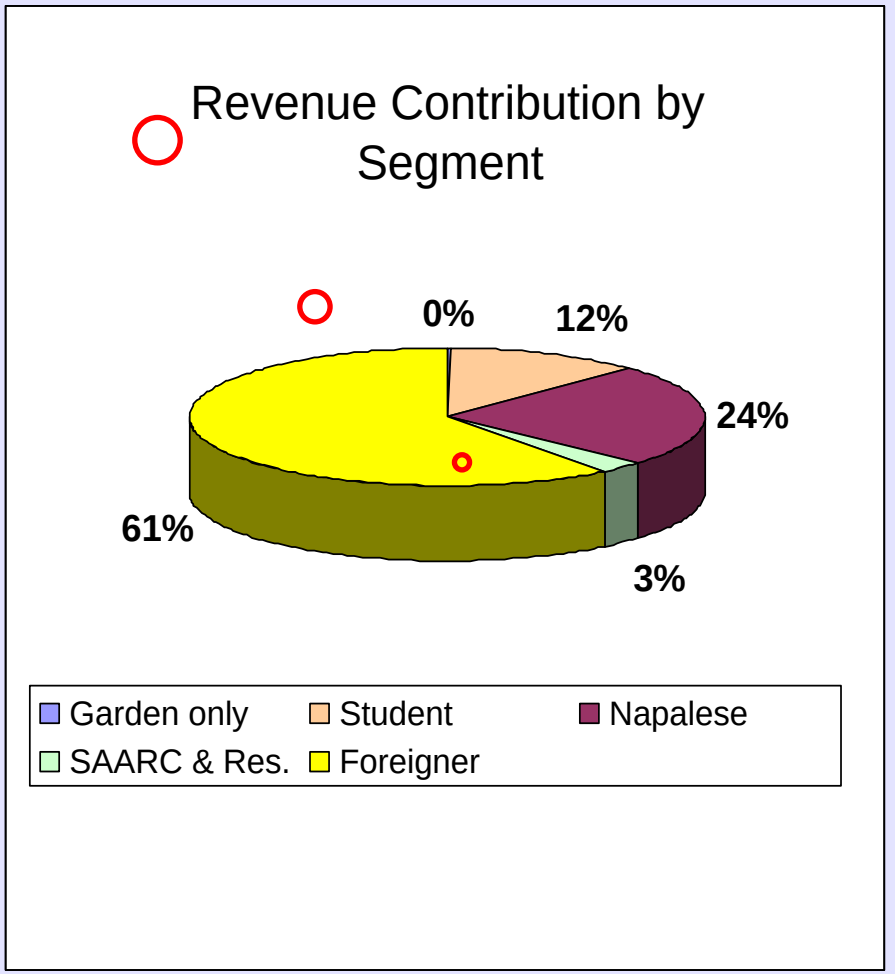
Visitors & Revenue Contribution by Segment

以上、当時の報告
資料の一部

International Mountain Museum

Period: Jan '06 to Feb.'06





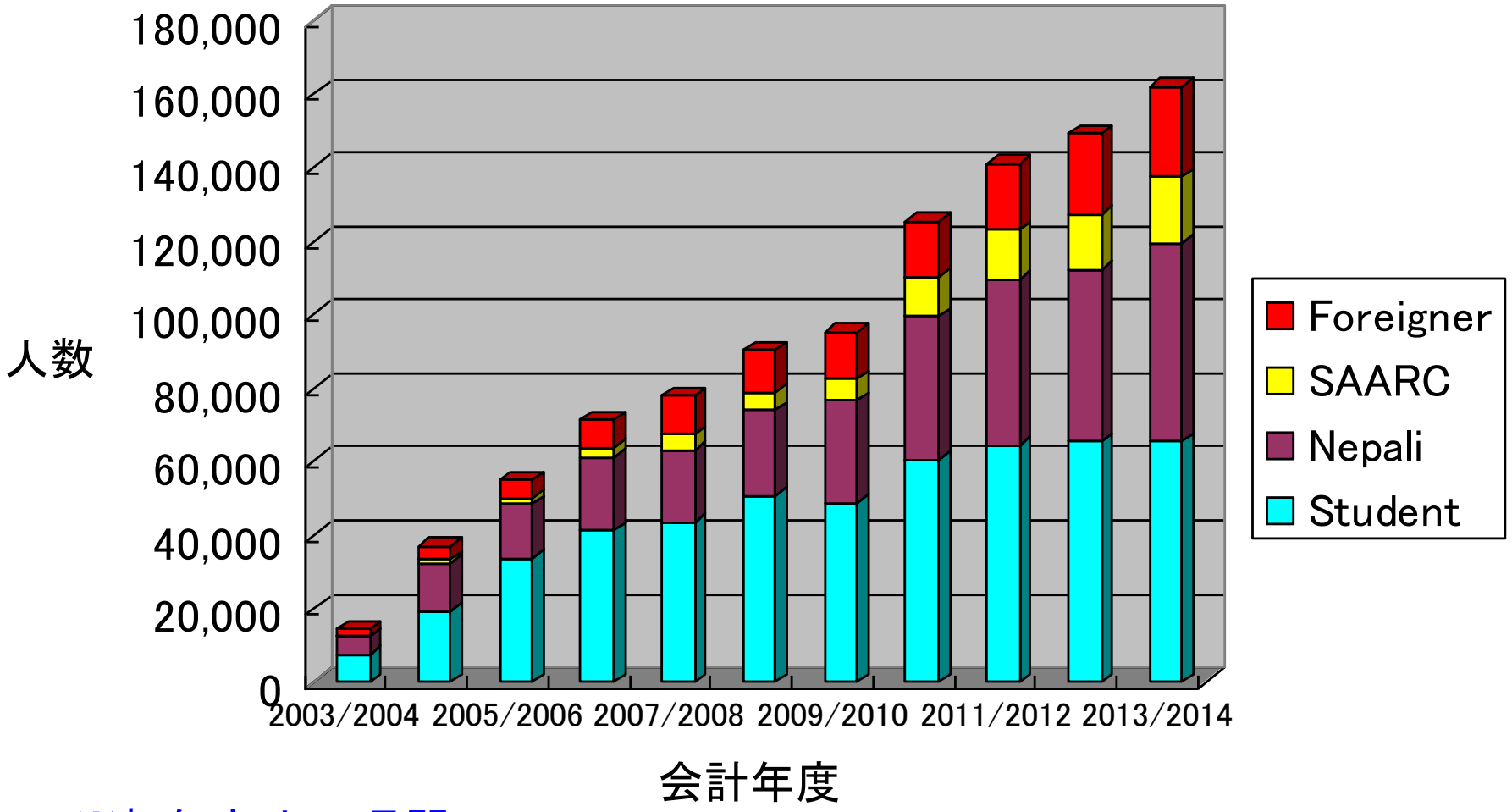


その後の入場者数及び入場者収入の推移

左写真：2006年に完成したクライミングウォール。

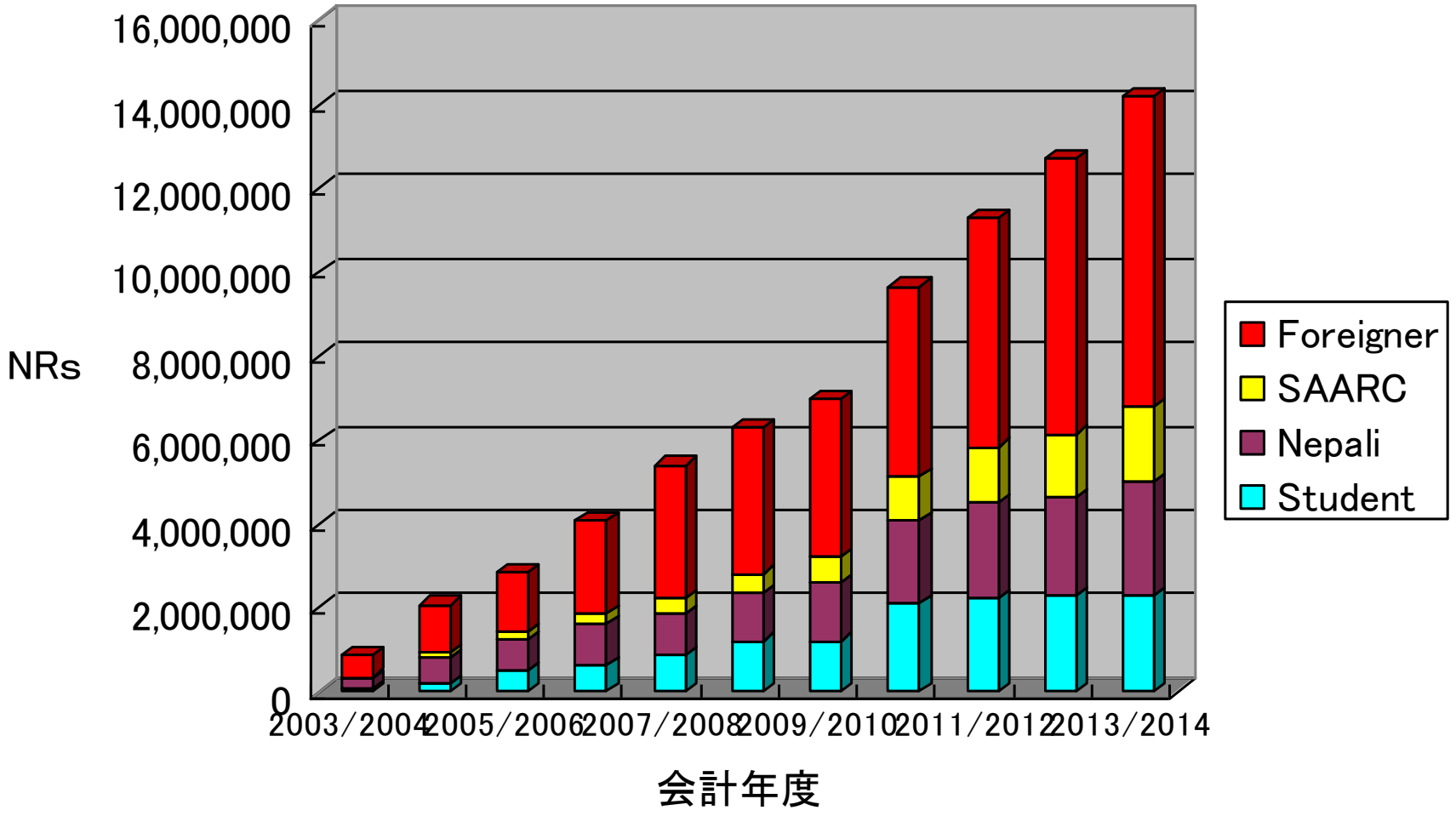
1979年の、フランスとして2回目のアンナプルナ遠征において、仏人のアンナプルナ第2登を果たした、Henri Sigayret氏が、この人口壁の設計・施工・監督をした。シェルパ族の奥さんと山岳博物館のロッジに住みこんで、作業員の監督・指揮をした。

IMM　年度別入場者数推移



※初年度は6ヶ月間のみ

IMM　年度別入場収入推移



※初年度は6ヶ月間のみ

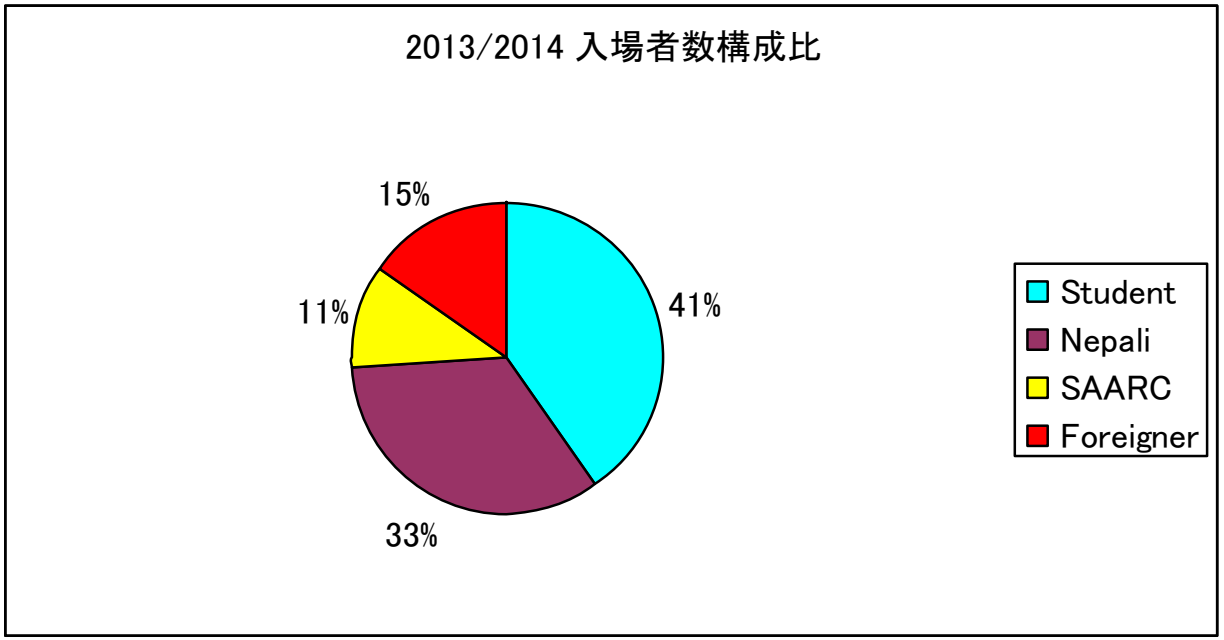
ビクラム暦とネパールの会計年度

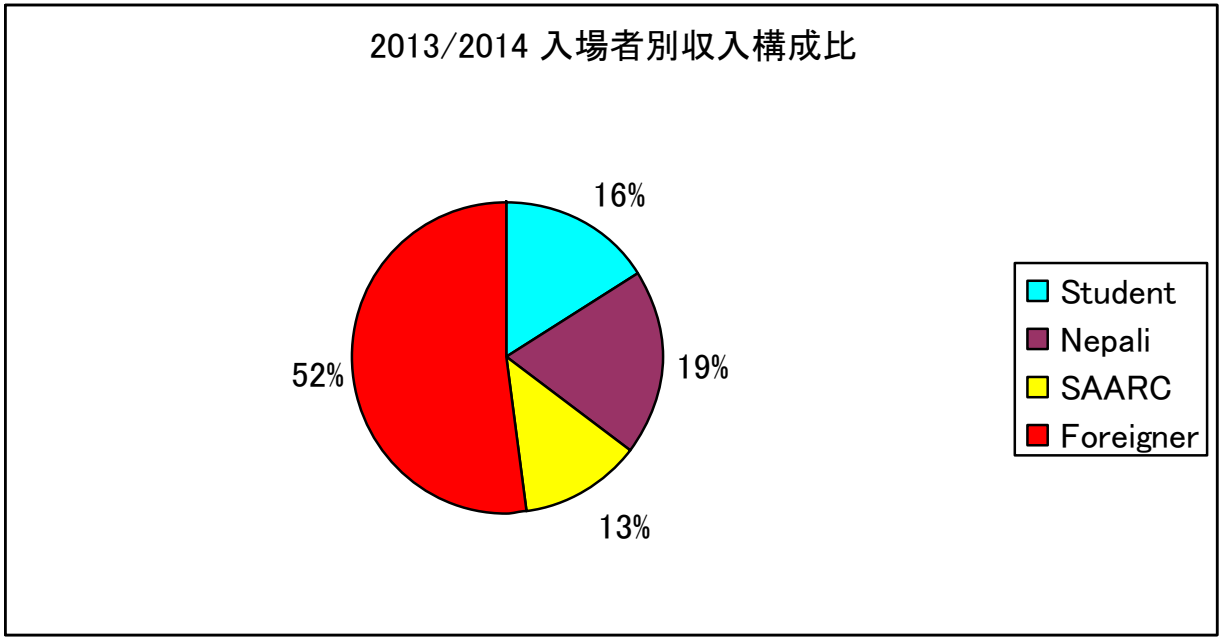
＜参考＞

ネパール暦2070年				ネパール暦2071年											
9 Poush	10 Magh	11 Falgun	12 Chitra	1 Baisakh	2 Jestha	3 Ashad	4 Shrawan	5 Bhadra	6 Ashwin	7 Kartic	8 Mansir	9 Poush	10 Magh	11 Falgun	12 Chitra
会計年2070年度							会計年　2071年度								Ashad まで

西暦と日本の会計年度

西暦2014年												西暦2015年		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			会計年　2014年度(平成26年度)											





＜入場料＞

学生：NRs30

Nepali:NRs50

SAARC:NRs100

外国人：NRs300

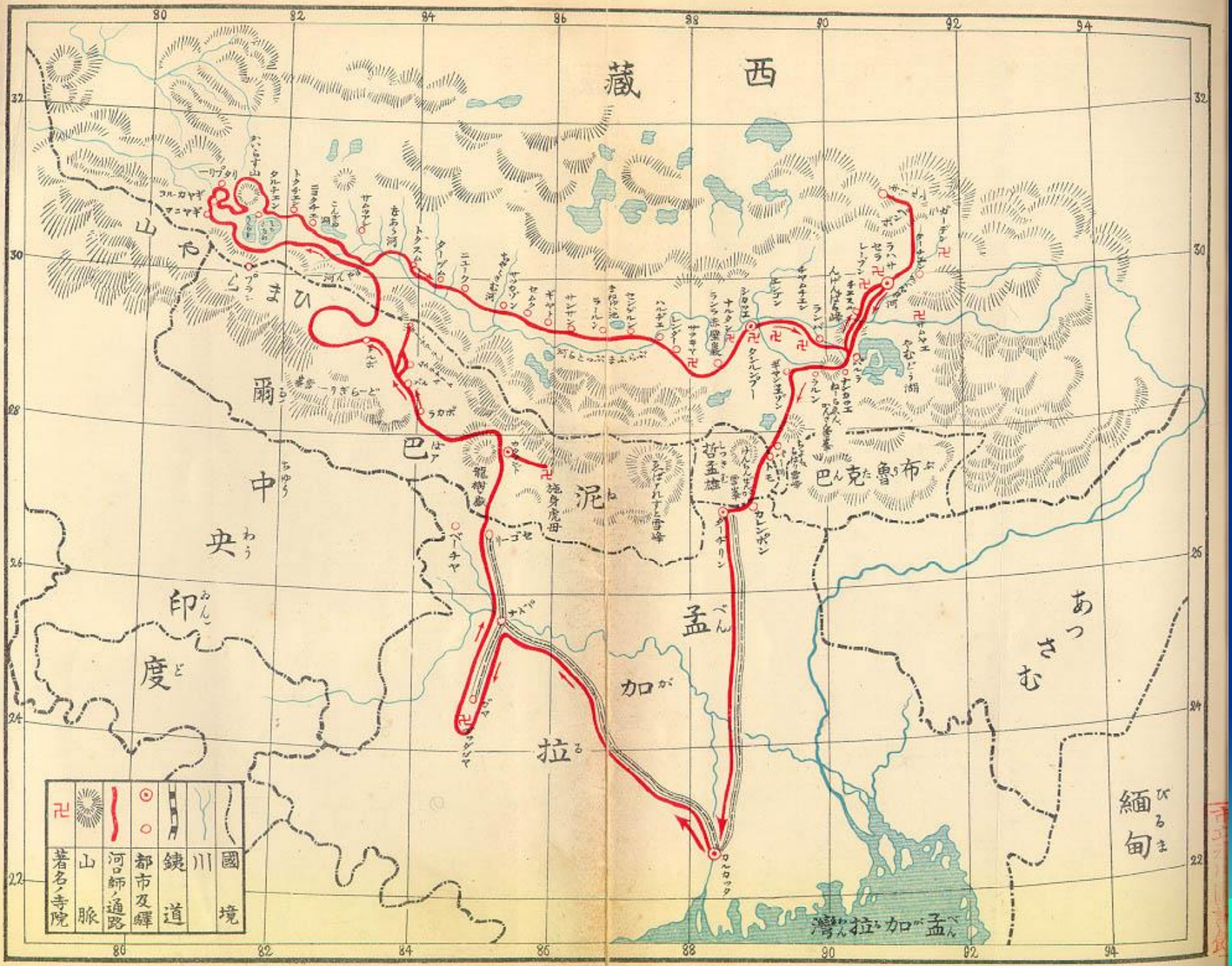
＜注＞

2014年7月中旬より、それぞれNRs40,80,200,400に値上げ。

SAARCは南アジア連合国、外国人はSAARC以外の国。

ネパールの河口慧海の足跡と博物館展示




西藏
中央印度
巴爾布
巴克魯
孟加拉
阿薩姆
緬甸
孟加拉灣
國境
川
鐵道
都市及驛
河口師ノ通路
山脈
著名ノ寺院


カトマンズ、ボウダナート

ボウダナートの河口慧海顕彰碑



ここに日本とネパールの友好が始まる

河　口　慧　海

1866　～　1945

1899年2月、仏教の原典を求めてのチベットへの旅の途上、日本人として初めてネパールを訪れた河口慧海は、ブッダ・バジラ・ラマ師の庇護をえて、ここボードナートに滞在し、苦難の末チベットに入り多くの貴重な原典を日本に持ち帰った。ブッダ・バジラ・ラマ師をはじめとする多くのネパールの人々の温かい支えなしにこの偉業は成功しなかった。

ここに、ネパールとネパールの人々への感謝をこめて、初めてネパールを訪れた日本人である河口慧海ゆかりの地に、日本とネパール両国国民の永遠の友好を祈念して顕彰碑を設置するものである。

1997年11月

住　吉　　薫
(1995年9月26日　没)

チベット旅行記よりポカラの記述

山中の花の都

ポカラという所はネパール山中で甚だ美しい都会であたかも日本の山水明媚なる中に別荘が沢山建ててあるかのごとく見えます。竹の林に花の山、新緑鬱茂して居るその上に、魚尾雪峯より流れ来る水は都会の周囲を流れて遠く山間に流れ去るという。私が通った中ではネパール第一の美しい都会でありますが、その水の色は米の洗汁のような色です。これは多分山間の土をとかして来るのでございましょう。

以下、略。



トゥクチェのハルカ・マン（現ニルジャール宅；現在はアップルブランディ工場

トゥクチェは富山県の元利賀村と姉妹村だった



ニルジャール家の二階の仏間

チベット大蔵教や仏像が安置



慧海が滞在した二階と、ニルジャール家の奥さん



マルファの河口慧海が滞在したアダム・ナリン宅。現在はアダムナリンの孫にあたる人が、道を挟んだHotel Mount Villaを経営している。そこに頼めば慧海のゆかりの品や部屋を見学させてくれる。

アダムナリンの孫にあたる、スパルナ・クマール・ラルチャンさん



ひ孫の奥さん




河口慧海ゆかりの品



アダム・ナリンの仏堂。カンギュル経典を収める。
2005年撮影。2013年は装飾が少し変わっていた。

慧海も訪れたムクチナート

ヒンドゥー教と仏教の聖地。チベット旅行記にある、「水の上の燃える火は」今も見ることができる。





ジョムソンの村の南にある、
ムスタン・エコ・ミュージアム

河口慧海の展示



チベット旅行記

ポカラのグルカ博物館



グルカ兵にはマガール、グルン、ライ、リンブーが多い。ポカラにはグルン族の元グルカ兵の豪邸がよく見られる。

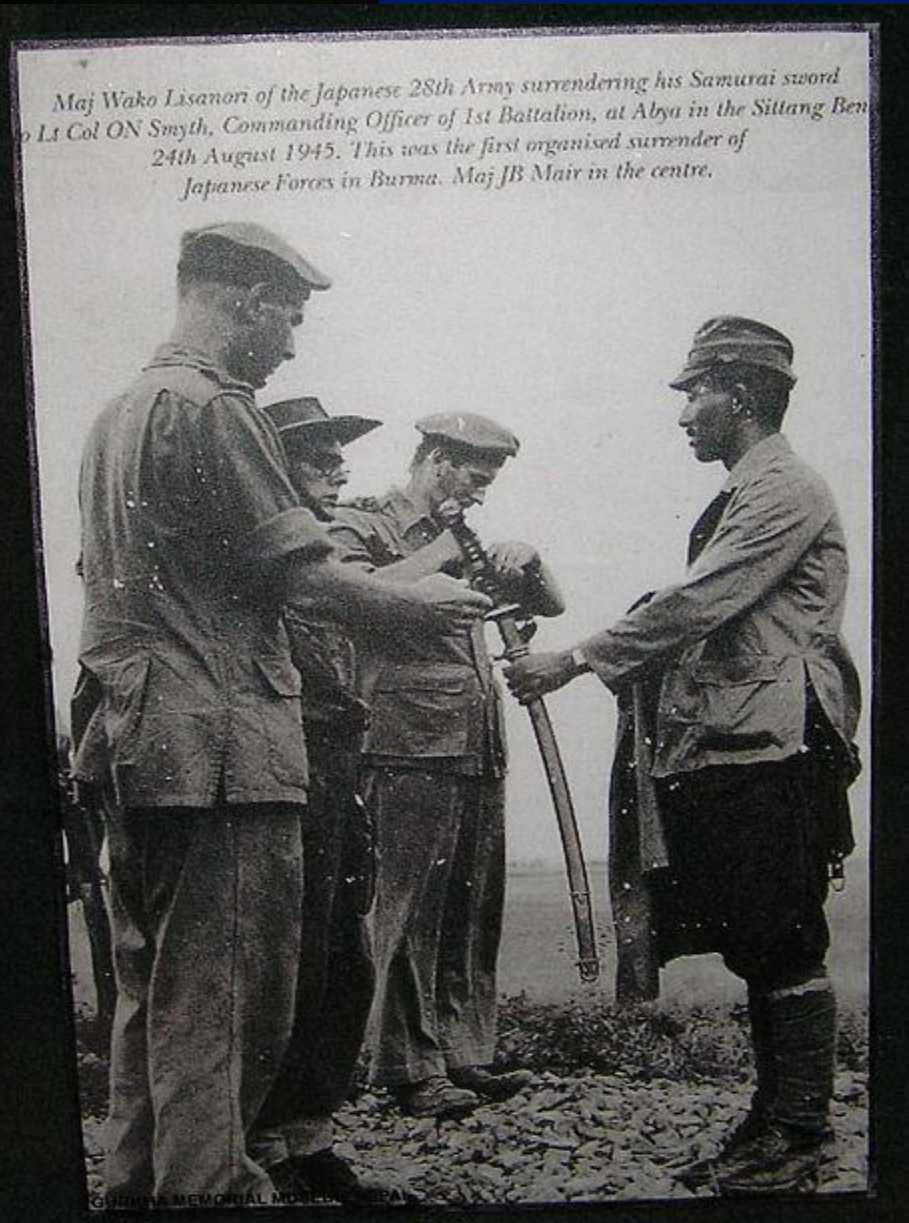
ポカラのグルカ博物館

सु.मे./ह.ले. श्री हर्कबीर गुरुङले
पल्टनबाट ल्याउनुभएको चिनो,
दोस्रो विश्व युद्धमा जापानी बाट
लिएको जापानी
तरवार सन १९४०

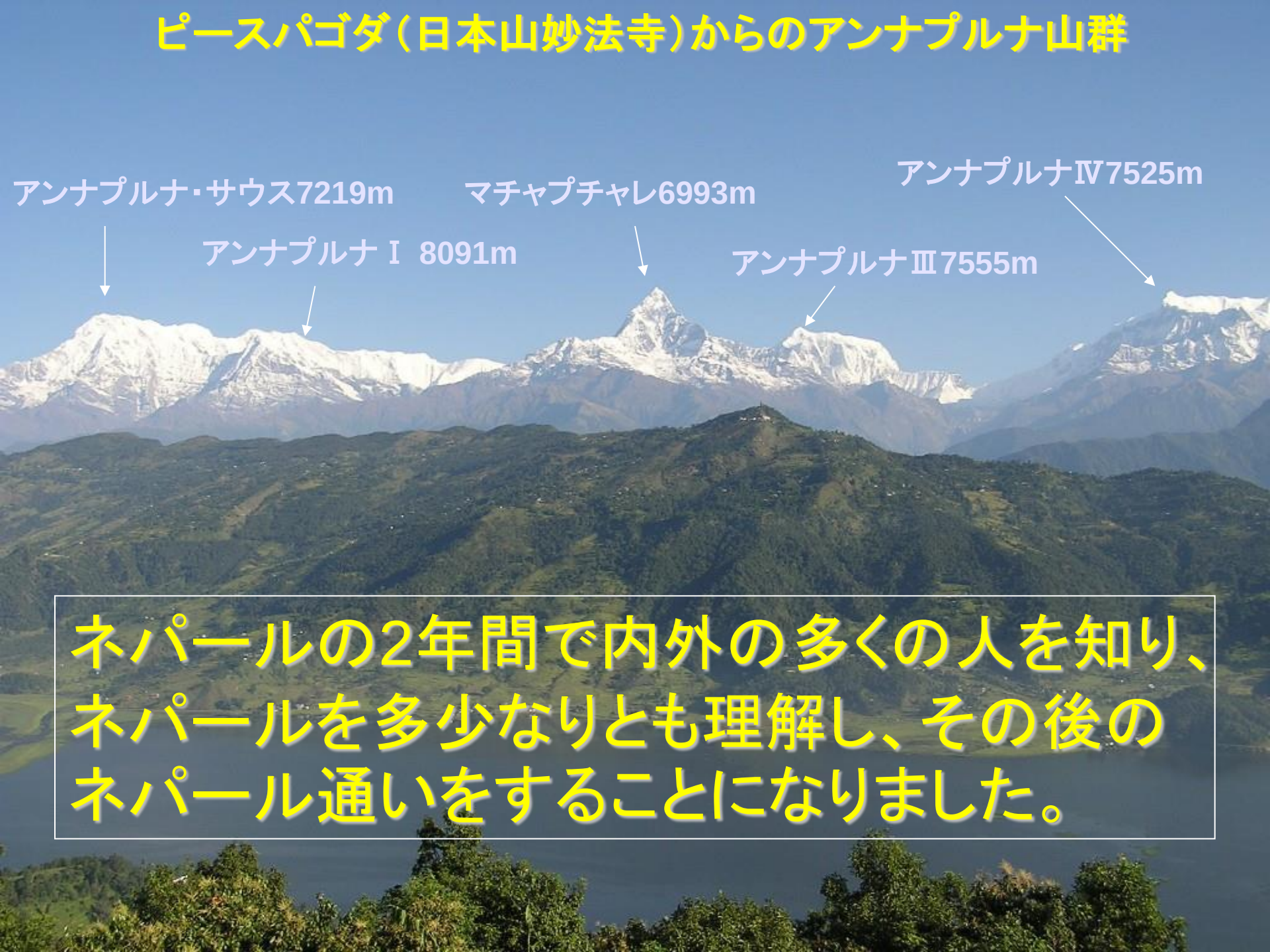
This Japanese sword was presented to Hon Lt (GCO) Harkabir Gurung on disbandment of his previous battalion.

He was born in 1925 in the village of Nalbang, in Gorkha district west Nepal. He enlisted into 4/1st Gurkha Rifles on 10 December 1940. In 1945 whilst he was with his battalion in Burma, he was wounded while leading a section during an attack on a Japanese road block on 21 March. He was evacuated to East Bengal where he remained for 6 months. In September 1945, he returned to Burma and joined a special platoon in his battalion at Pegu on the Sittang River. Then the Japanese surrendered. In September 1946, his battalion returned to their regimental centre at Dharamsala and in December it was disbanded.

Gift: Hon Lt (GCO) Harkabir Gurung MVO Gurkha Signals



第二次世界大戦で日本軍も英国軍のグルカ兵との戦闘があった



ネパールの2年間で内外の多くの人を知り、ネパールを多少なりとも理解し、その後のネパール通いをすることになりました。

ネパール以後の主な海外山行、トレッキング

2006年8月　　アルプス登山；ブライトホルン、メンヒ、ポルックス（アイガー、マッターホルンは大量降雪で登山不可）

2006年11月　　アンナプルナ　トロン・ピーク登山～ティリチョ・レイク

12月　　エベレストBC、カラパタール～チョラパス～ゴーキョ・ピーク

2007年9~10月　　プモリ登山（JAC)、トロンパス（2人）

2008年11~12月　アイランド・ピーク登山、ランタン（ツェルゴリ、ゴサインクンド）

2010年8月　　バルトロ氷河K2BC（ツアー参加）

2011年10月　　シングーチュリ転じてテント・ピーク登山（JAC)

2012年10~11月　チュールーウェスト登山、テリチョ・レイク～メソカント・ラ

2013年10~11月　トゥクチェ・ピーク登山（2人）、レンジョ・パス～ゴーキョP～チョラパス

2014年8月　　新疆　チョゴリBC（ツアー）

※表記のないものは個人山行

☆国内山行は、冬や5月を中心として、八ヶ岳の中山尾根などの岩稜や穂高コブ尾根、白馬主稜、剱岳源次郎尾根、上越の雪稜など。沢や山スキーもやる山屋で

2006年　トロンピーク　6114m





2006年　トロンピーク登山
トロンパスにBC



トロンピークの肩直下。ガイドのパサン。


ティリチョ･レイク
2006年、この時は周囲には
人工物は何もなく静寂だった

プモリ　7165m　JAC隊　2007年



プモリBC




プジャの準備



同時多発雪崩

降雪が続いた後で雪が不安定だった



2011年　JAC シングーチュリ　6501m



2005年撮影

シングーチュリ（フルーティド・ピーク）




テントピーク（タルプーチュリ）5695m登山に変更
タルプーチュリはアンナプルナサウスに初登頂した京大隊が、1964年に南東稜より初登頂している



アンナプルナⅠ南壁


BC。背景はヒウンチュリ


荷揚げ


荷揚げからBCへ戻る





シングーチュリへのルートは厳しく断念







タルプーチュリから北に延びる尾根へ登る


タルプーチュリ（テントピーク）





頂上にて


登頂直前から天気は一変し、ネパールは
一週間近く悪天が続いた

2012年　チューループ・ウェスト　6419m 登山



ベースキャンプ　約4800m




ハイキャンプ　約5300m



ガイドのパサン





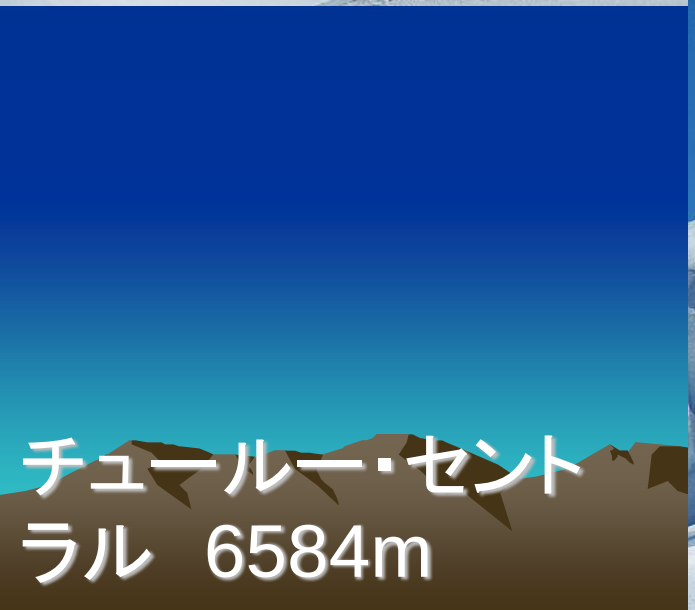
ドイツ人2人パーティ





チュールー・イースト　6429m





チュールー・セントラル　6584m

2012年　テリチョ･レイク～メソカント･ラ



メソカント･ラ　5121m


ティリチョ･レイク　4920m
湖畔には以前はなかった茶店ができていた


ティリチョ･ピーク　7134m

2013年　トゥクチェ･ピーク　6920m　登山





カロパニ　キャンプ地



ヒドゥン・バレー、奥はシタチュチュラ　6611m

BCよりトゥクチェ・ピーク



2013年　レンジョ・パス～ゴーキョP～チョラパス



ヨーロッパ人には人気のこれらの峠越えも、日本人は非常に少ない

レンジョ・パス　5345m



レンジョ・パスに着くと、突然絶景が現われる



ゴーキョ･ピーク5360m

向こうはパリラプチャ6017m



ゴーキョ･ピークより。2013年10月12日からヒマラヤ一帯は大雪となり、約一ヶ月後もこの積雪だった。




チョラ・パスの登り。西側は急で、日も当たりにくく、
雪はすべりやすい。


チョラ･パス　5330m
2006年にはほとんど人に会わなかったが･･･

チョラツェ（右）とアマダブラム



コンマ;コロコロとかわいい鳴き声の鳥



ヒマラヤの登山関係における最近の傾向

1．地球温暖化の影響

（1）氷河、雪線の後退

（2）土砂崩れや落石で地形の変化

（3）クレバスの増加

5000～6000m付近はクリティカルな気温の高度のため、影響が一番大きい。以前は比較的容易に行けたルートが行けなくなったり、難しくなっている。


チュールーウェスト（6419m）：かつては左から右
上に延びるクレバス帯がルートだったが、最近は
ルートが変わった。

2. モンスーンの不安定化

これも地球温暖化の影響かもしれない

モンスーン時期に雨が少なかったり、10月になっても、大雪、大雨が続くことが多くなった（ような気がする）。

2014年10月にベンガル湾からのサイクロンが襲い、ネパールの中西部は大雪となり、吹雪、雪崩で多くの人が亡くなった。⇒後述

一般に10～12月は好天が続き、トレッキングや6~7000m級の登山適期であるが、過去にも雪崩遭難はあった。⇒後述

ネパール アンナプルナ エリアを中心とした大雪、雪崩遭難（2014年）

原因：ベンガル湾からインド亜大陸を襲い、ネパールの中西部に向かったサイクロンHudhudが暴風雪や、雪崩を引き起こした。

経過：10月12日までの好天が急激に悪化

14日：トロンパスでは暴風雪、雪崩で多数の犠牲者。

Phu（プー）でも雪崩で4人死亡。

ダウラギリのBCでも大規模な雪崩発生。

16日：外国人76人を含む154人救助。

10月17日　ティチョ･レイクやラルキャ･ラ（5160m、マナスル一周にある峠）でも多くの人が孤立した。死者は39人に。

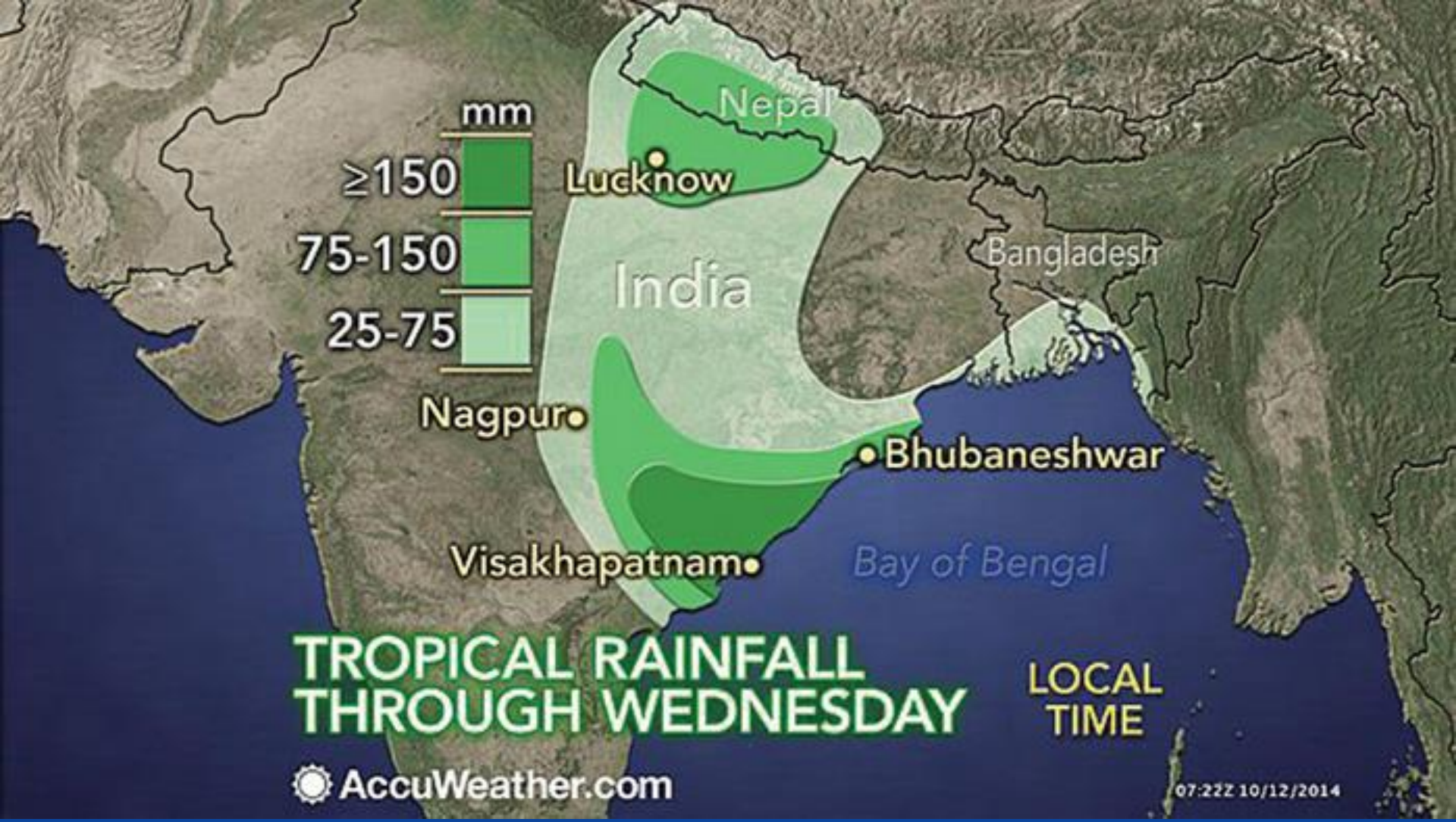
10月18日　トロンパスで日本人2人の遺体が確認される。死者は最終的には43人とも言われる。トロンパスでは17人以上亡くなる。



救助や遺体の収容にはネパール軍が大きく貢献した。

問題点：天気予報などの情報伝達システムの不備。トレッカーの装備や知識不足。

対策：トレッキングルートに情報センターと避難シェルターの設置を検討。



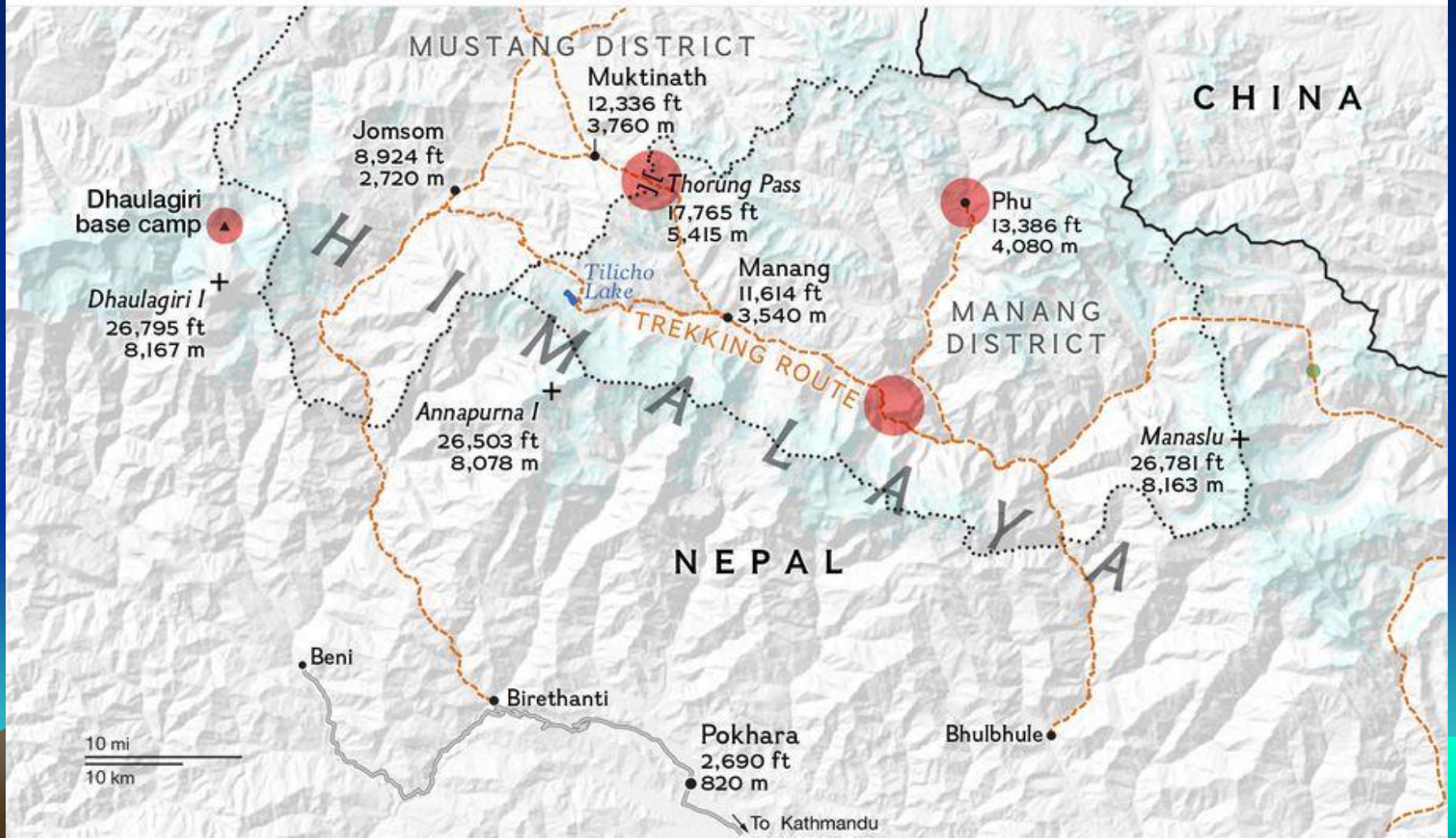
サイクロン　Hudhud　2014年10月

Deadly snowfall, avalanches

After a blizzard and avalanches, more than two dozen are feared dead in a popular trekking region of Nepal's Himalaya Mountains.







過去のポストモンスーンの大雪による遭難

1995年11月　ゴーキョ・ピークのやや南に位置するパンガ（カ）でキャンプ中に雪崩が襲い、日本人13人とガイド・ポーター11人、現地住民2人の、計26人死亡。大雪と雪崩でエベレスト周辺で42名が亡くなった。土砂崩れ等を加えると60人以上。

2005年10月20日　マナンの東方のプーの北にあるカングールー(6981m）に向かったフランス隊のキャンプ場に雪崩が襲い、フランス人7人、ネパール人11人の、計18人が死亡。4人のネパール人はテントの外にいて無事だった。

ネパール ヒマラヤの新規解禁峰と登山料金の改定

1. オープンピーク（2014年5月21日より）

（1）従来のオープンピーク：326座から16座除外

（2）新規オープンピーク：104座

（3）合計オープンピーク：414座

2. トレッキング・ピーク（新規名称）

5800m未満のピーク：登山許可や登山料金不要。トレッキングの中で自由に登ることができる。

新規登山料金（2015年1月1日より施行）

外国人一人当たり料金

単位：USD

	ピーク	春	秋	冬/夏
1	エベレスト（一般ルート）	11,000	5,500	2,750
2	エベレスト（他ルート）	10,000	5,000	2,500
3	その他の8000m峰	1,800	900	450
4	7501m~7999m	600	300	150
5	7000m~7500m	500	250	125
6	6501m~6999m	400	200	100
7	アマダブラム(6812m)	400	400	200
8	6500m未満	250	125	70

NMAピークについて

●通称トレッキングピークと呼ばれることが多いが、正確にはネパール山岳協会（NMA）が指定したクライミング・ピーク（18座）とエクスペディション・ピーク（15座）の計33座のことである。新しく制定された、トレッキングピークとは全く異なる。5800m未満の山は新しいトレッキングピークに移行された。

●NMAに申請し、登山料やゴミ処理供託金を払う。

●易しい山と誤解されているが、クスムカングルーやシングーチュリのように簡単には登れない山も多い。


ご清聴有難うございます
Gandharva Chuli 6248m
ヒマラヤのアンナプルナ山群にある未踏峰